



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



がんばろう大阪!

院長 かわせ いちろう 川瀬 一郎

皆さん、いかがお過ごしですか。日本はいよいよ参議院選挙が近づいてきました。停滞していた日本経済を金融緩和、規制緩和と成長戦略で再浮上させる!!という「アベノミクス」がいよいよ審判されるわけですが、現状ではまだ一般市民に経済再浮上の実感は浸透していません。しかしその期待感は大変強く、過日の東京都議選では自民党と公明党が圧勝しました。

今年に入って3回東京に行きましたが、行くたびに人が混んできており、東京は確実に活気がみなぎってきています。それに比べると大阪は「まだまだ」と言わざるを得ません。大阪以外の「地方」も当然活気回復は「まだまだ」ですが、でも何か努力を続けている地区が出てきています。テレビを見てみると、毎週どこかでグルメをからめた地方物産展やお祭りが行われています。多くはB級グルメにも届かないシロモノですが、見ていてほほえましくもあり、なかには滋賀県の近江牛ランチなどはリピーターが出てきているようなのです。

一方、大阪は政治論議が相変わらず盛んですが、もう少し人集めに力を注いではどうでしょうか。経済特区や医療特区もよいですが、やはり人集めの基本は「グルメ」です。大阪には行列のできるお菓子屋さんもありますが、大阪ならではのB級グルメはやはりタコ焼き、お好み焼きときつねうどんでしょう。私は新幹線に乗るたび、きつねうどんを車内で食べたいのですが。みなさんはいかがです？

医療用麻薬は怖くない

麻酔科主任部長

たかうち ゆうじ 高内 裕司

麻薬は覚醒剤や大麻などのように、闇取引されている怖い薬と誤解されていることがあります。しかし、モルヒネやフェンタニルなどの医療用麻薬は、不正麻薬と違って、有効性・安全性が確認され国が承認した薬剤であり、手術麻酔や癌性疼痛などの様々な痛みに対して用いられます。

日本で癌性疼痛の治療の普及が遅れているのは、医療用麻薬に対する誤解や偏見があるためでした。例えば、①「麻薬を投与すれば麻薬中毒になる」、②「麻薬を投与すれば患者の死期を早めてしまう」などです。

まず①については、痛みのない人にモルヒネが投与されることにより、脳内にドパミンという神経伝達物質が大量に放出されて快感状態になり、これが長く続くと中毒状態になります。しかし、強い痛みがある時には、モルヒネが投与されてもドパミンの放出が抑えられ、快感・中毒状態にはなりません。すなわち痛みのある人に、適切に医療用麻薬を長期間投与し続けても、中毒になることはありません。また痛みが弱くなり、医療用麻薬を投与する必要がなくなれば、医師の指導のもと



とに、徐々に量を減らして安全に投与をやめることができます。決して止められない薬ではありません。

②については、適切に投与する医療用麻薬は日々の生活状況を改善させます。医療用麻薬で十分に痛みを取ることによって安心して過ごせれば、気力・体力が回復し、癌そのものの治療にも専念でき、見事に癌を克服した患者さんも多くいます。

癌性疼痛は早期癌でも 1/3 に、終末期癌では 2/3 以上に出現するとされています。激しい痛みの治療には、鎮痛作用が強い医療用麻薬の使用が必要であり、WHO（世界保健機関）方式癌性疼痛治療法の基本は、医療用麻薬を適切に使うことです。日本でも WHO 方式の有効性が確認されており、90%以上の癌患者さんの痛みが消え、残りの患者さんでも軽減できたという結果が出ています。

このように医療用麻薬についての正しい知識を持つことが重要です。

<看護部 誠意と温かみのある優しい看護を目指して⑦>

5A 病棟



5A 病棟は慢性閉塞性肺疾患（COPD）を代表に、慢性呼吸不全、間質性肺炎や急性期～慢性期の肺炎など呼吸器疾患中心の病棟です。入院患者さまの約 6 割は酸素療法をされ、マスク型人工呼吸器をされている方もおられます。私たちは、呼吸困難などの症状緩和を目指しながら、必要な酸素量やよりよい動作の仕方などを患者さまと共に取り組み、理解を深めています。



また、呼吸器内科外来の担当も 5A 病棟です。外来通院→入院生活→退院後を見据えた支援→外来通院…と継続看護に力を入れており、初めての酸素療法や人工呼吸器を行いながら退院される患者さまへは、訪問看護を行うこともあります。よりよい退院後の生活をイメージして支援を行っていますが、訪問看護により入院中気付かなかった家での動作、酸素機器の設置の場所など困ったことはないかを調整します。そして、在宅で受けられる看護・介護サービス業者と連携して、患者さまが安心して在宅療養できるようにしています。

慢性呼吸不全の患者さまは、入退院を繰り返すことがあり、「また入院した～よろしくね」「元気になったけど、もうちょっと入院しときたいわ～」、外来においても「変わらず大丈夫やで」「最近、調子悪くて心配・・・」と顔をあわせ、声をかけ合うことが多くなり、そこからまた、患者さまにとってよりよい看護を考えることも多くあります。そして患者さまに看護を行う中で、時に私たちは元気をもらい励まされています。



これからも「患者さま一人一人が病気と付き合いながらも、その人らしく過ごせるよう」、呼吸器看護の専門性をさらに高め、患者さまと共にいる看護を目指したいと思います。

7月の教室案内

*カンガルー教室

● 7月3・10・17・24日

午後1時～

第1会議室

*禁煙教室

● 7月4日

午後3時30分～

医療情報コーナー

*喘息教室

● 7月18日

午後2時～

第2会議室